

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2017

課題番号：25300046

研究課題名(和文) 東ティモールのナショナリズムの人類学的研究：想像される国家と想像される言語

研究課題名(英文) Anthropological Study of Nationalism in Timor Leste

研究代表者

中川 敏 (Nakagawa, Satoshi)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：60175487

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：当研究計画は新興のマイクロステート、東ティモール共和国のナショナリズムを言語に焦点をあてて分析した。国際性という脈絡(「市民社会」)では公式ナショナリズムの推すポルトガル語に、英語・インドネシア語が対抗しているという図式が見えた。国民国家の言説のレベルでは、近年(2010年代)カトリック教会が強調されているという傾向が見られる。ナショナリズムの対抗要素にもなり得る地方文化は、トゥン語のうちに「標準化」されつつある。

研究成果の概要(英文)：This project was an anthropological study of a nascent state, Republic of Timor Leste, focusing on languages. At the international level, we found that, in addition to Portuguese, the officially selected national language, English and Indonesia languages increased the popularity. At the national level, it should be admitted that Tetun, another national language, has spread all over the nation with remarkable quickness. The importance of the Tetun language is further enhanced (in the official nationalism) by the fact that most of the population are Roman Catholic. Many local cultures, which could become counter-movements against the national unity, have been rearranged, reclassified and, thus, "domesticated" in some standardized way. These are the distinctive features we have found in the Timor Leste nationalism.

研究分野：文化人類学

キーワード：ナショナリズム 国語 言語ゲーム

### 1. 研究開始当初の背景

2002年に独立した東ティモール民主共和国(以後「東ティモール」と呼ぶ)は、複雑な歴史、複数の言語をもった新生のマイクロステートである。東ティモールという国家が、グローバリズムの席卷する現代社会の中で、いかにしてそのナショナリズムを形成しつつあるのかを、人類学的調査から明らかにするのが本研究の目的であった。

本研究は言語に注目することから始めた。植民地期以前のリンガフランカのマレー語、植民地期の公用語のポルトガル語、インドネシア期の公用語のインドネシア語、現在の公用語のテトゥン・ディリ語、そしてダウン語を始めとする数多くの地方語、最小限に絞ってもこれだけの言語を対象とした調査が不可欠である。本研究は、現在望まれる最善のメンバーにより東ティモールの今生まれつつあるナショナリズムを人類学的に研究する。

### 2. 研究の目的

東ティモールは、国際社会の中での位置、あるいはNGOや市民による平和構築の運動などの視点からこれまで語られてきた。いわばグローバリズムの脈絡の中でのみ東ティモールは語られて来たのである。この研究はローカルな視点を取り入れて東ティモール社会をより包括的に描くことを目的とした。言い換えれば、グローバルとローカルの繋りを強調しつつ、ナショナルな(国民国家としての東ティモール)社会のレベルを二つのレベルの仲介として設定したのである。言語に焦点をあわせればポルトガル語がグローバルな言説を、テトゥン語がナショナルな言説を、そしてそれぞれの地方語がローカルな言説を担っている、との想定のもとに調査を開始した。

### 3. 研究の方法

人類学的なフィールドワーク調査を中心に研究を進めていった。毎年8月頃に実地調査を行ない、その後国内研究会を開催し、各自の成果をすりあわせるというプロセスを繰り返した。

東ティモールにおいて、グローバルな社会(市民社会)とローカルな社会(地方共同体)の相克の中で、いかにナショナルな社会(国民国家)が想像されてきたか/いるかを探ること、そしてその三つがいかに関連しているのかを分析するのが本研究計画の目標であった。1年目・2年目には三つの社会を考察するために、対応する三つの焦点領域(メディア、地方社会、首都)を設定した上で調査を進めていった。

3年目からは二つの焦点領域(飛び地と国境地帯)を追加した。そうすることによって、ナショナルなもの(ナショナリズム)と拮抗し、同時にそれを生み出してもきた他の二つのレベル、ローカルなもの(とグローバルなもの

のをより多角的に把握していくことを計画した。

5年目(最終年度)にはオーストラリアから長く東ティモールをフィールドとする人類学者と政治学者を招き、カンファレンスを開催して研究を総括する。

### 4. 研究成果

(1) ポルトガル語に関しては奥田を中心として調査・研究をした。ポルトガル語の国民への浸透はまだままだであった。その分、ポルトガル語は「権威」はもつ言語としてみなされていることもわかってきた。ただし、国際社会への窓口としては英語が好まれる傾向がある。日常のコミュニケーションには主にテトゥン語が使用されている。

(2) 公式には排除された筈のインドネシア語はまだそれなりに使用されていることが判明した。独立後に教育を受けた(すなわち、インドネシア語をならっていない)世代においても、インドネシア語は衛星放送などを通じて受け入れられている。またNGOなどによる教育においても、テトゥン語にはテクノロジーなどの語彙が乏しいため、インドネシア語が使用されることが多い。

(3) 近年(2010年代)政府によるオフィシャルなナショナリズムの必要な要素として教会(とりわけカトリック)が積極的に取り入れられていることも明かになった。2016年にはカトリック教会がティモールに到来した500年記念が大々的に催された。上田が明らかにしたように独立後も続く内乱の時期の「和解」には教会の儀礼が大きな役割になっている。

(4) 教会の到来した500年前から存在し、現在も存在するウィハレ王国と東ティモールのナショナリズムの関係は複雑である(中川発表)。すくなくとも東ティモールの西部においては人々のアイデンティティの大きな要素でありつづけている(福武発表)。

(5) 現在の東ティモールを考える上で辺境の問題が重要であることも明かになってきた。「テトゥン語を喋れない人がまだいる」地域として、人々はオエクシ(ティモール島西部にある東ティモールの飛び地)とファタルク(東ティモールの東端)を挙げる。この2つの地における東ティモールナショナリズムの実態を知ることができたのは(国際カンファレンスにおけるマクウィリアムの発表および森田発表)大きな収穫であった。

2017年11月に行なった国際カンファレンスの中で、以上のような論点が挙げられた。カンファレンスの後もメーリングリストを通じて議論が深まった。現在国立民族学博物館が発刊する『国立民族学博物館研究報告』

の特集号を作るべく、同館編集委員会と協議を進めている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

上田達 「東ティモール・ディリの都市集落における和解行事と2つの信仰」『南方文化』第44輯掲2018年3月 49-67頁

奥田若菜 「権威語としてのポルトガル語 --- 東ティモールにおける公用語化と言語政策の一考察」『グローバル・コミュニケーション研究』第五号神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所紀要、2017年3月、79-104頁

森田良成 「『ねずみの道』の正当性：ティモール島国境地帯の密輸に見る国家と周辺社会の関係」白山人類学研究会『白山人類学』第19号 2016年3月 225--248頁

中川敏 「嘘の美学」『社会人類学年報』第43巻2017年1--2頁

[学会発表](計9件)

福武慎太郎 「東ティモールの非暴力<ナヘビティ>」主催：日本国際文化学会第15回全国大会における招待講演発表場所：早稲田大学 2016年7月16日

Fukutake, Shintaro. Refugees and the Cross: Religion, Languages, and Borderland in Timor シンポジウム：SEASIA 2015 Conference 主催：Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (Kyoto International Convention Center) 2015年12月12日

上田達 「住まうこと、さすらうこと、むすびつくこと-----東ティモールにおける土地をめぐるポリティクス」2015年9月19日学会：第88回日本社会学会大会発表場所：早稲田大学発表要旨：日本社会学会88回大会研究報告132頁

Morita, Yoshinari. Legitimasi "Jalan Tikus" Diskusaun Fulan Naroman (Moonlight Discussion) (Asosiasaun HAK Dili, Timor) 2016年8月

Morita, Yoshinari. "Mice" of the transborder trade: "Reconciliations" and "compromises" of the Timor smugglers International symposium Nationalism in Timor Leste: seen from anthropological viewpoints 2017年11月(大阪大学中之島センター)

Okuda, Wakana. Establishing the legitimacy of Portuguese as an official language (大阪大学) An International Symposium on Nationalism in Timor Leste 2017年11月(大阪大学中之島センター)

Ueda Toru. Reiterated Encounter: On the ceremony of reconciliation at the urban

settlement in Dili, Timor-Leste 2017年11月12日シンポ：An International Symposium on Nationalism in Timor Leste (大阪大学中之島センター)

Fukutake, Shintaro. The Centre of the Land, the Periphery of the State: Wars and Migrations in Southern Tetum Society, Timor Island. An International Symposium on Nationalism in Timor Leste (大阪大学中之島センター) 2017年11月12日  
Nakagawa, Satoshi. Nationalism of Absence: Timor Leste seen from an Indonesianist's viewpoint. An International Symposium on Nationalism in Timor Leste (大阪大学中之島センター) 2017年11月12日

[図書](計5件)

奥田若菜 『貧困と連帯の人類学 --- ブラジルの路上市場における一方的贈与』2017年2月春風社

辰巳(福武)慎太郎 「難民と十字架：ティモール島における宗教と言語の位相からみた国境問題」杉本良男編『キリスト教文明とナショナリズム - 人類学的比較研究』風響社、2014年3月、263-290頁。

辰巳(福武)慎太郎 「東ティモールの非暴力思想<ナヘビティ>」小田博志・関雄二編『平和の人類学』法律文化社、2014年3月、95-117頁。

福武慎太郎・田中(坂部)由佳子 「第5章 市民と議員が平和をつくる 東ティモール自決権行使を求める国際的連帯を事例に」福武慎太郎・堀場明子編『現場<フィールド>からの平和構築論』勁草書房、2013年9月、113-136頁。

森田良成 「国境を越えるねずみたちのストリート：ティモール島の密輸における『和解』と『妥協』」関根康正(編者)『ストリート人類学』風響社 2018年2月 287--316頁

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

中川 敏 (NAKAGAWA, Satoshi)  
大阪大学・人間科学研究科・教授  
研究者番号：60175487

(2)研究分担者

福武慎太郎 (FUKUTAKE, Shintaro)  
上智大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：80439330

上田達 (UEDA, Toru)  
摂南大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：60557338

奥田若菜 (OKUDA, Wakana)  
神田外語大学・外国語学部・講師  
研究者番号：10547904

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

( )